

ワークショップだより Vol.2

たくさんのご意見ありがとうございました。
みなさまから頂いたご意見をとりました。

開催結果概要

日付：令和元年7月27日（土）
令和元年7月28日（日）

場所：鳥取市福祉文化会館 3階 第1・2会議室

討議テーマ：「インターチェンジなどアクセスを検討する際の配慮すべき点について考えてみよう！」

参加者：R元.7.27（土）：24名（全6班体制）
R元.7.28（日）：25名（全6班体制） 総勢49名



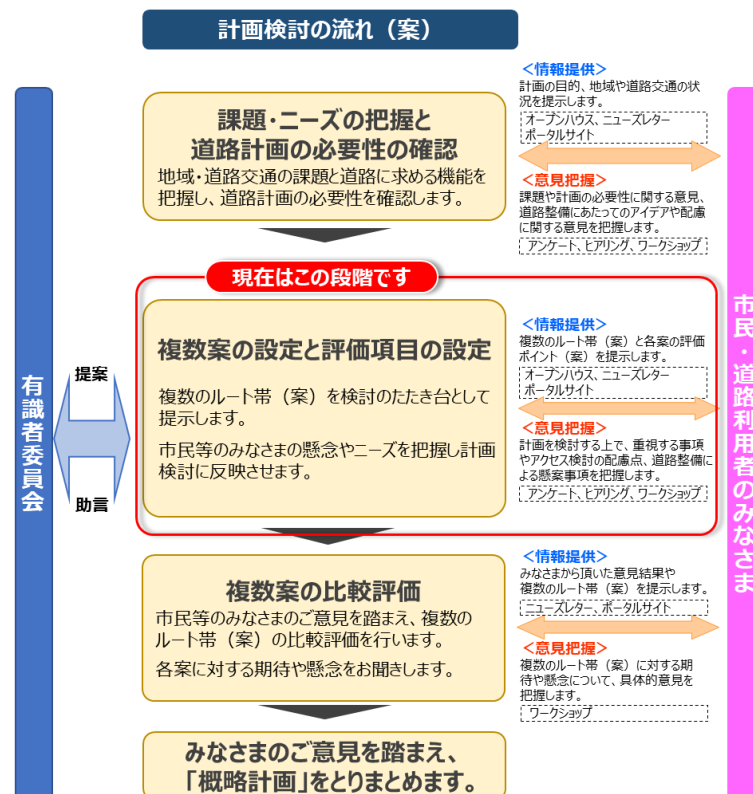
みなさまに活発なご意見を
いただきました。

鳥取～福部の検討は
このように進めます。

R元.7.27



R元.7.28



ご意見・
お問い合わせ先

国土交通省 中国地方整備局 鳥取河川国道事務所 計画課
電話：0857-22-8435（受付時間8:30～17:15） ※土日祝を除く
メール：info-tottori@cgr.mlit.go.jp
ポータルサイト：http://www.cgr.mlit.go.jp/tottori/road/tottorifukube/index.html



ワークショップ開催の様子

総勢49名の方々に参加いただき、活発なワークショップを開催することができました。

●第一部

開会・レクチャー

国土交通省鳥取河川国道事務所からの挨拶の後、鳥取豊岡宮津自動車道（鳥取～福部）の道路の計画検討に関するこれまでの経緯と現在の検討状況について説明を行いました。



▲開会挨拶の会場の様子



▲事務局からの説明

講演

ワークショップのアドバイザーである鳥取大学の長曾我部助教に、「道づくりでまちづくり～鳥の視点でパースと見渡す～」と題して講演をしていただきました。



▲講演者（鳥取大学長曾我部助教）



▲講演を聴く会場の様子

自己紹介

ワークショップを始める前にグループ毎に自己紹介を行いました。
各テーブルで、みなさまに活発にご発言いただき、和やかな雰囲気づくりができました。



▲自己紹介の様子①



▲自己紹介の様子②

●第二部

はじめに

事務局からワークショップの手順等の説明を行いました。



▲ワークショップでの留意点の説明



▲ワークショップの進め方の説明

グループワーク

各テーブルの進行役を中心に参加者のみなさまから活発な意見をいただきました。



▲各グループの話し合いの様子



各グループの結果紹介

最後に書記としてお手伝いいただいた、鳥取大学の学生によって各班の発表が行われました。



▲各グループの意見紹介の様子

テーマ：「インターチェンジなどアクセスを検討する際の配慮すべき点について考えてみよう！」

今回のワークショップでは、「インターチェンジなどアクセスを検討する際の配慮すべき点」に関して、より具体的なご意見を伺うことを目的に、それぞれのルート帯（案）において、

★5つの政策目標を達成するための
インターチェンジ位置やその考え方
について、各グループで検討していただきました。

各グループで検討していただいた結果（具体的な設置箇所に関するご意見・その他のご意見）を重ね合わせ、『みなさまのご意見』として、右記・下記のように整理しました。

右図に示しているインターチェンジ位置は、案①全線バイパス案について、各グループで検討していただいたご意見を重ねて表現したものです。そのため、各箇所へのインターチェンジ設置が決まったわけではありません。



【案①】全線バイパス案 についてのみなさまの主なご意見

【具体的な設置箇所に関する主なご意見】



【その他の主なご意見】

- ▶ 地域の拠点や主要施設へのアクセス性だけでなく、本線の安全性も考えるべき。
- ▶ インターチェンジの整備により、周辺道路の渋滞が懸念される。
- ▶ 千代川に橋が架かると、鳥取砂丘～鳥取空港間のアクセスがしやすくなる。
- ▶ インターチェンジの出入口は混雑するため、出入口を離し、ハーフインターチェンジを設置するなどの工夫も必要。
- ▶ 国道9号や、53号などのメイン道路へ接続することで、中心市街地へのアクセス性が向上する。
- ▶ インターチェンジ等の合流部は、本線の走行性に影響する場合がある。

テーマ：「インターチェンジなどアクセスを検討する際の配慮すべき点について考えてみよう！」

今回のワークショップでは、「インターチェンジなどアクセスを検討する際の配慮すべき点」に関して、より具体的なご意見を伺うことを目的に、それぞれのルート帯（案）において、

★5つの政策目標を達成するための
インターチェンジ位置やその考え方
について、各グループで検討していただきました。

各グループで検討していただいた結果（具体的な設置箇所に関するご意見・その他のご意見）を重ね合わせ、『みなさまのご意見』として、右記・下記のように整理しました。

右図に示しているインターチェンジ位置は、案②部分バイパス+現道立体化案について、各グループで検討していただいたご意見を重ねて表現したものです。
そのため、各箇所へのインターチェンジ設置が決まったわけではありません。



位置Bに関する主な意見

- ▶ 鳥取港（賀露港）、鳥取空港、商業施設、中心市街地、国道9号、国道29号、物流拠点（千代水地区、卸売市場、湖山駅）、鳥取大学へのアクセスのために必要。
- ▶ 千代川氾濫時でも利用でき、千代川を挟んだ往来の新たな選択肢になる。
- ▶ 県道伏野覚寺線の渋滞緩和につながる。

位置Aに関する主な意見

- ▶ 鳥取砂丘、県立中央病院、鳥取環状道路、中心市街地（鳥取駅、県庁）へのアクセスのために必要。
- ▶ 災害時に、千代川を挟んだ往来の新たな選択肢になる。
- ▶ 鳥取環状道路を用いることで、中心市街地へのアクセス性が向上する。

位置Cに関する主な意見

- ▶ 布勢総合運動公園（コカ・コーラボトラーズジャパンスポーツパーク）、県道鳥取鹿野倉吉線へのアクセスのために必要。
- ▶ 災害時に、防災拠点・避難所である布勢総合運動公園へのアクセス経路が増える。

【その他の主なご意見】

- ▶ 地域の拠点や主要施設へのアクセス性だけでなく、本線の安全性も考えるべき。
- ▶ インターチェンジの整備により、周辺道路の渋滞が懸念される。
- ▶ インターチェンジの出入口は混雑するため、出入口を離し、ハーフインターチェンジを設置するなどの工夫も必要。
- ▶ インターチェンジ等の合流部は、本線の走行性に影響する場合がある。
- ▶ 中心市街地へつながるため、国道53号へのアクセスが必要。
- ▶ 末端部分が国道9号や国道53号にアクセスできない場合、近くに新たなインターチェンジが必要。

【案②】部分バイパス+現道立体化案 についてのみなさまの主なご意見

【具体的な設置箇所に関する主なご意見】



テーマ：「インターチェンジなどアクセスを検討する際の配慮すべき点について考えてみよう！」

今回のワークショップでは、「インターチェンジなどアクセスを検討する際の配慮すべき点」に関して、より具体的なご意見を伺うことを目的に、それぞれのルート帯（案）において、

★5つの政策目標を達成するための
インターチェンジ位置やその考え方
について、各グループで検討していただきました。

各グループで検討していただいた結果（具体的な設置箇所に関するご意見・その他のご意見）を重ね合わせ、『みなさまのご意見』として、右記・下記のように整理しました。

右図に示しているインターチェンジ位置は、案③部分バイパス+現道活用案について、各グループで検討していただいたご意見を重ねて表現したものです。
そのため、各箇所へのインターチェンジ設置が決まったわけではありません。



【その他の主なご意見】

- ▶ 地域の拠点や主要施設へのアクセス性だけでなく、本線の安全性も考えるべき。
- ▶ 鳥取インターチェンジと端末部を直接接続することで混雑が緩和される。
- ▶ 鳥取環状道路へ多くの大型車の流入するため、安全性に配慮が必要。
- ▶ 鳥取環状道路は生活道路として利用が多く、通過交通と地域内交通の速度が異なる交通が混在することが懸念される。
- ▶ 鳥取環状道路との接続部分にて、近接する工場等から大型車が乗れる構造になればいい。
- ▶ 災害時に、通行止めや浸水被害などが懸念される。

【案③】部分バイパス+現道活用案 についてのみなさまの主なご意見

【具体的な設置箇所に関する主なご意見】

